白神山地ビジターセンターだより No.11

2007年　冬の号

白神 Shirakami-sanchi visitor-center ぶな倶楽部

会員大募集中

ゆっくりと白神を見まわしてみよう
のんびりと白神を調べてみよう
白神の森は　やさしく　あたたかく
そして　この森では　いろんな歌が聞こえる
野の鳥の歌　獣たちの歌
ぶなの葉がゆ～らりゆら～りと落ちる歌
渓流のさわやかな歌　森をぬける風の歌
この森の歌を　いっしょに楽しもう
気ままにひとりで　友達どうしでにぎやかに
ときには夫婦で　みんな仲間になろう
白神ぶな倶楽部　ゆっくり　そしてのんびりと

白神山地ビジターセンター
館　長　　黒　瀧　晴　彦

白神ぶな倶楽部で仲間をつくろう！

平成19年度　白神ぶな倶楽部会員限定メニュー

実施日	難易度	プラン	内容・備考
4月29日	初　級	講座・トレッキング	ビジターセンター、乳穂滝、鷹ノ巣、美山湖他
5月13日	初　級	講座・トレッキング	ビジターセンター、ブナ林散策道
6月17日	初　級	トレッキング	巨木ブナふれあいの径、遊々の森
7月29日	初　級	沢歩き	大川渓流往復
7月29日	中　級	沢歩き	大川（タカヘグリ）、大倉又沢渓流
7月29日	上　級	沢歩き	大川（タカヘグリ）、大倉又沢渓流、ブナ原生林
9月16日	中　級	トレッキング	大崩展望台往復
9月16日	上　級	登山	天狗岳往復
10月21日	初　級	トレッキング	遺伝資源保存林、津軽森
10月21日	中　級	トレッキング	高倉森経由自然観察歩道

詳しい内容については、お問合せ下さい。

白神信仰の由来

白神山地ビジターセンター解説員　玉川　宏

白神信仰の由来は定かではないが、ここでは1974年に秋田孝季（あきたたかすえ）が収集し、記録した「諸説」の中から私が興味を持った「説」を紹介することとしたい。

以下は、その「説」の抜すいであるが、表現を現代風に書き改めたものである。

古代、我々の祖先は、山靼（アジア）大陸からやって来た。山靼への道しるべは、渡島（北海道）から流鬼国（サハリン）へと渡り、黒龍江（アムール川）と称する大河を遡上し、大興安嶺に連なる山々を西に越えればバイカル湖に至る。バイカル湖は、湖といえども我国の西海（日本海）のごとく広い。山靼もまた広いが、この地に住む人々の面相は、ことごとく我等と同じ面相であり、部族の数も多いが総じてモンゴロイド族という。

この地に祀られている神は、ブルハンという神で、古来、北方玄武の大神であったという。この神の神通力は、凍氷をもって北方神座を作り、高い山の山頂をも真白にするが故に、別の名を大白山神、または白山神ともいう。我国の「白山信仰」とは、山靼にはじまったこの古神の信仰である。

この神の神通力は全能で、天地水の一切に明暗を司る神であることから、「天地水三輪の神」ともいう。我国の「三輪大神」を祀る起源もここにあるが、神なる相は、「自然」であって「天然そのもの」である。

山靼のこの神を、長白山（朝鮮名白頭山）経由で我国に伝えたのは、阿毎（あま）氏である。阿毎氏は、数千年前、山靼から満達（現中国東北部）、朝鮮を経由して越川（現新潟県）にたどり着き、加賀（現石川県）の犀川に移り、そこに居住した。

そして、その加賀の地で、阿毎氏は、故地山靼の神であるブルハン神（またの名をアラハバキ神、三輪大神、白山神）を祀ったのである。その後阿毎氏は、耶馬台（現近畿地方）まで国を広め、初代「耶馬止王」以来、数十代にわたり君臨したという故事がある。

白神岳展望所から見た白神岳

耶馬台の三輪山に祀られている大神は、その阿毎氏が先に加賀の地で祀っていた「三輪山大神」を移鎮したものである。

また、阿毎氏は山靼において、西に西王母、東に東王父を祀っていたという古事正伝に習い、出雲に女神、耶馬台に男神を祀るため、聖なる地を選定したという。

いずれにしてもブルハン神（またの名をアラハバキ神、三輪大神、白山神）は、天然自然が神そのも

のであり、天地水を要（かなめ）とする神であり、万化に変じて世を護持する「全能なる神通力の神」なのである。

その後の阿毎氏は、耶馬止王から数十代を経た安日彦王の代に、神武天皇との戦に敗れて、耶馬台から北落ちし、古代奥州に落ちのびて来た。古代奥州の先住民であるアソベ族、ツボケ族は、耶馬台族と同じに祖先は山靼人であった。「イシカホノリガコカムイのほか神はあらず」として、この三神（天地水神）を祀っていたのである。

また、時を同じくして、支那の晋という国が滅亡し、その国の郡公氏一族が大挙して古代十三湖に漂着した。その郡公氏一族が信仰していた神は、支那天山天池に祀られていた神であり、支那ではアラハバキ神という神名で崇められていた。

そして、この神こそ西王母、東王父、白山神をも意味し、天地水の三神をも意味する神だったのである。

アソベ族、ツボケ族、耶馬台族、そして支那郡公氏一族の四族すべてが天地水神の三神を要としていたことから、この四族の信仰に共通する天然自然の神を一つの神に集成し、アラハバキイシカホノリガコカムイと称して四族統合の唯一神とした。四族はアラハバキ族と称し、その初代の王に安日彦が即位したのである。

また、天地水神の三神の神座を護るのは、「白神姫」とされ、その「白神姫」の子孫が、姫神、白山神、黒姫、白鳥、白鹿、白鶴、白馬、月輪熊、白蛇、白龍、白鷲、白鷹の十二神とされたのである。

白神信仰は、このように安日彦王以来、日之本国（安倍川、糸魚川以東）中に広まり、飽田の白神山（現青森県の白神岳は、江戸時代の初めまでは現秋田の山だった）から、海峡を越えた渡島（現北海道）に伝播し、多くの信者を増やしたという。

以上が、秋田孝季が三十数年かけて日本国中のみならず、ユーラシア大陸横断という三蔵法師顔負けの旅をして、命懸けで収集した厖大な「記録」の中から、「白神信仰に関する記録」の一部を抜すいしたものである。

秋田孝季は、「疑わしい史伝もそのままに記した。自分が創作したものではない。玉石混淆かも知れないが、その判断は後世の識者に委ねたい。」と記している。当時の大博物学者秋田孝季は、現在生きている私たちに対して、自分が収集した諸記録を吟味してほしいと願っているのである。

津軽海峡をはさんで、青森県の竜飛岬に一番近い北海道の岬の名前は、「白神岬」である。その岬から稜線を北北東に３キロメートルほど登ると、そこにも青森県と同じ「白神岳（標高352メートル）」がある。その「白神岳」の山頂から西側斜面を下山すれば、「白神」という名の集落もある。

こうした現在の状況をふまえた上で、私たちは二百年前の秋田孝季の努力に報いるべき時代に生きているのではないだろうか。

白神岳から望む夕日

教育関係のみなさんへ

なんだろう、インタープリテーション？

インタープリテーション=「通訳」と訳されますが、欧米では「自然・遺産を通訳する」という意味合いを持っています。自然、文化、歴史的な遺産、すなわちここでは白神山地を人々に伝える活動をすることをインタープリテーションといいます。インタープリテーションはインタープリターによる一方的な説明ではなく、参加する人々から上手に会話を引き出し、様々な物事と自然、文化、歴史を比較させたり、問いかけたりすることによって、参加者の思いを引き出すことによって自然や文化、歴史の裏側にある“メッセージ”を伝える活動のことをいいます。

これにより、その価値や意味するところを伝え、次の世代に受け継いでもらうこと、次の世代に受け継ぐことを考える機会を増やします。

私たちは長い間、自然とのかかわりの中で社会を構築してきました。そのなかで培われてきた知恵や歴史・文化・産業の遺産とともに、豊かな自然を伝えてきました。

しかし近年、ライフスタイルが大きく変化してきたことから、人々の自然とのかかわり、ふれあいや自然体験が減少し、感性、危機回避能力、自然理解力が低下するとともに、自然に対する価値観の変化をもたらしています。自然のすばらしさ、感動、大切さを体験的に身に付け、ライフスタイルや地域を見直す人間作りが求められています。

白神山地ビジターセンターではインタープリテーションプログラムを通じて、自然体験・環境教育のお手伝いをさせていただきます。

お問い合わせは、白神山地ビジターセンターへ

白神山地ビジターセンター

〒036-1411　青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田６１－１
Tel：0172－85－2810　Fax：0172－85－2833
ホームページ　http://www.shirakami-visitor.jp/

※42名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。（要申込み）
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。

※この白神山地ビジターセンターだよりは古紙配合率100%、白色度82.0%の再生紙を使用しています。